

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 12年2月

～貿易収支は原数値では5ヵ月ぶりの黒字だが、季節調整値では赤字が継続

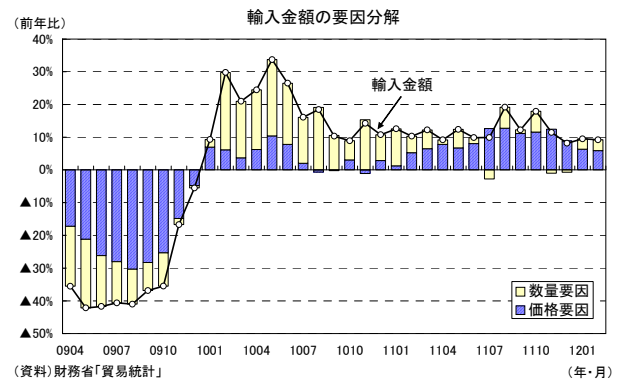
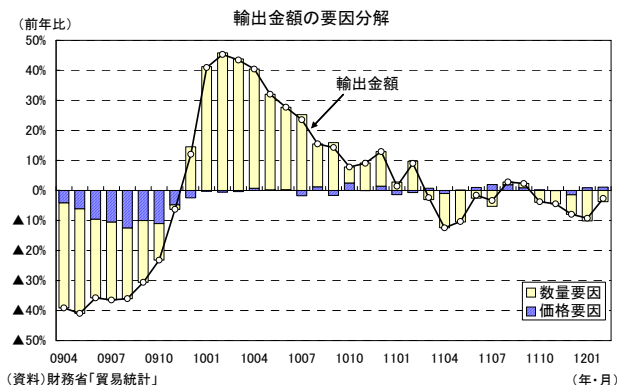
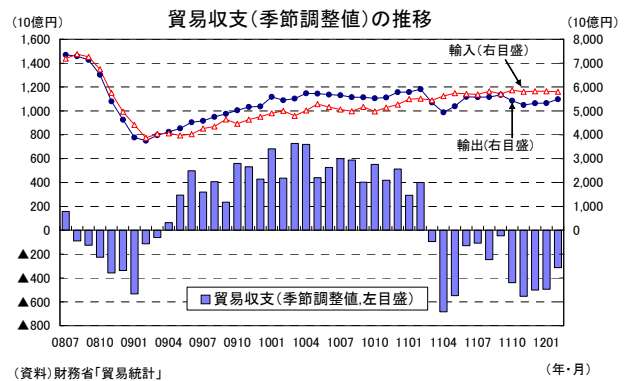
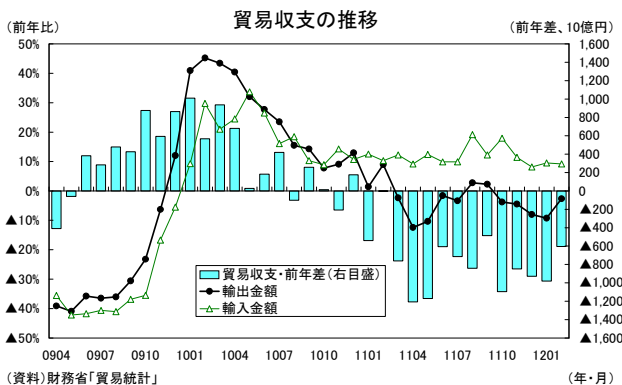
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は12ヵ月連続の赤字

財務省が3月22日に公表した貿易統計によると、12年2月の貿易収支は329億円と5ヵ月ぶりの黒字となり、事前の市場予想(QUICK集計:▲1,200億円、当社予想は▲1,497億円)を上回る結果となった。輸入は前年比9.2%(1月:同9.5%)と引き続き高い伸びとなったが、輸出の減少幅が1月の前年比▲9.2%から同▲2.7%へと大きく縮小した。

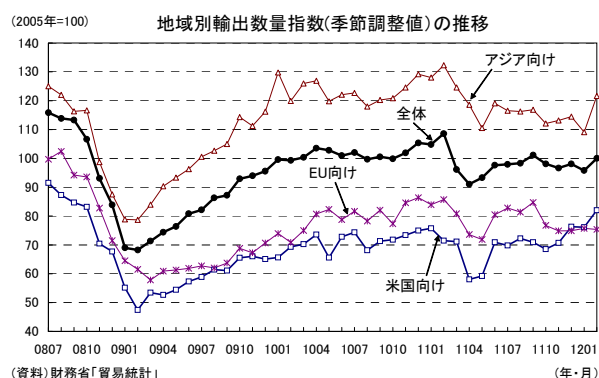
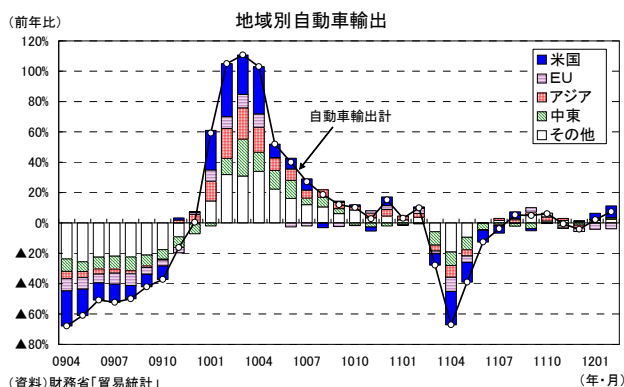
貿易収支が原数値で黒字に転換したのは、1月とは逆に2月は貿易収支が改善しやすいという季節性があることが影響している。2月の貿易収支を季節調整値で見ると、▲3,132億円と12ヵ月連続の赤字となった。1月の▲4,943億円からは縮小したものの基調としては依然として赤字が続いている。また、1月は中国の旧正月が輸出の下押し要因となったが、2月はその反動で輸出が押し上げられている面があることも割り引いてみる必要がある。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲3.8%（1月：同▲10.1%）、輸出価格が前年比1.2%（1月：同1.0%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比3.2%（1月：同3.1%）、輸入価格が前年比5.8%（1月：同6.2%）であった。

2. 米国向け輸出の回復基調が鮮明に

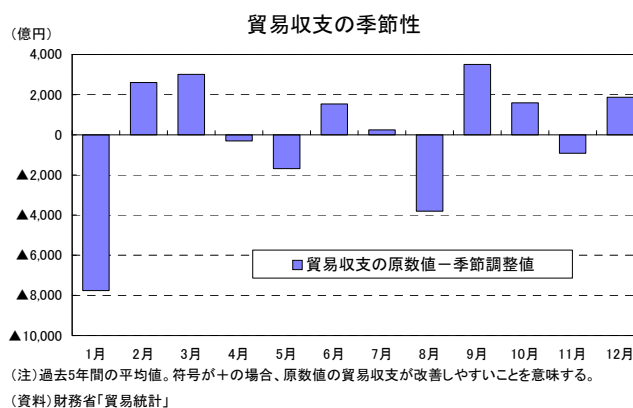
自動車輸出は前年比7.4%となり、1月の同2.2%から伸びが大きく高まった。EU向け（1月：前年比▲29.7%→2月：同▲31.0%）は引き続き大幅な減少となったが、アジア向け（1月：前年比▲1.2%→2月：同2.1%）が3ヵ月ぶりに増加し、米国向け（1月：前年比14.0%→2月：同26.9%）の伸びがさらに加速した。



1月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比14.8%（1月：同0.1%）、EU向けが前年比▲11.4%（1月：同▲9.8%）、アジア向けが前年比▲7.9%（1月：同▲14.9%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比7.7%、EU向けが同▲0.5%、アジア向けが同11.6%、全体では同4.4%となった。アジア向けの高い伸びは1月が旧正月の影響で前月比▲4.7%と落ちこんだ反動も含まれており、実態として輸出が大きく回復しているわけではない。輸出全体としては、EU向けの低迷を米国向けの好調がカバーする形でほぼ横ばい圏の動きが続いていると判断されるが、先行きについては円高修正の影響が顕在化することにより持ち直しに向かうことが予想される。

過去のデータを用いて貿易収支の季節性を見ると、3月は2月と同様に貿易収支が改善しやすい月となっている。このため、原数値の貿易収支は3月も黒字になる可能性があるが、貿易収支の基調を判断するためには季節調整値を用いることが適切である。

先行きについては輸出が持ち直しに向かう一方、原油などのエネルギー価格の上昇を主因として輸入金額が高止まりするため、季節調整値でみた貿易収支はしばらく赤字が続くことが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。